

UN Women「民間企業リーダーシップ諮問委員会」の結成

UN Womenは女性の権利とエンパワーメント促進のため、有力民間企業のトップがメンバーの「民間企業リーダーシップ諮問委員会」を立ち上げました。

6月2日、国連本部で行われた結成式では、ブムジレ・ムランボ-ヌクカUN Women事務局長が10人の企業を代表する設立メンバーを迎え入れました。

この強力な諮問委員会は事務局長の下で3つの特定分野についてアドバイスします。女性の経済的エンパワーメントの向上、女性への暴力の根絶、UN Womenの資金力増大の3分野です。

「諮問委員会がめざすのは、UN Womenの専門知識、ネットワーク、資源を駆使して世界中の女性・女兒の経済的社会的向上を図り、成果をあげることです」とムランボ-ヌクカ事務局長は述べています。「この諮問委員会は絶妙なタイミングで立ち上げられました。なぜならUN Womenはまさに『女性のエンパワーメント、人間のエンパワーメント』のテーマで北京女性会議の20周年を祝おうとしているからです」

この諮問委員会は招聘された著名な民間企業のリーダーで構成されています。リーダーたちの企業はすでに世界的な足跡を残し、女性・女兒の支援に積極的に取り組んでいることが広く認められています。

「ジェンダー平等、女性のエンパワーメントの推進がUN Womenの使命であることに鑑み、諮問委員会には様々な規模・地域の企業、また女性を参加させることでその多様性を高められるような基礎作りをしてほしい」とムランボ-ヌクカ事務局長は語っています。

「世界経済の成長を高めるには女性のエンパワーメントが絶対に欠かせない」とコカ・コーラ・カンパニーの会長兼CEOで、初代のUN Women民間企業リーダーシップ諮問委員会議長となったムフタル・ケント氏は述べています。「企業、政府、市民社会が黄金の三角形を作ってパートナーを組めば、必ず女性、その家族やコミュニティに良い影響を与えることができます。私はこの大切な仕事に民間企業を加えることで有意義な進歩をもたらせると確

信しており、この新しい諮問委員会の議長を務めることを光榮に思っています」

UN Women民間リーダーシップ諮問委員会は、年2回会合を開いて進捗状況を確認、啓発・資金調達活動に戦略的インプットを提供していきます。

10人の設立メンバーは以下のとおり：

1. ロレアル、会長兼CEO, ジャンポール・アゴン
2. マッキンゼー・アンド・カンパニー、CEO, ドミニク・バートン
3. ゴールドマンサックスグループ、会長兼CEO, ロイド・C・ブランクファイン
4. シャネル、グローバルCEO, モーリーン・シケ
5. アングロ・アメリカン、CEO, マーク・クティファニ
6. タッパーウェアブランズ、会長兼CEO, リック・ゴーイングス
7. オグルヴィPR, グローバルCEO, クリストファー・グレーブス
8. パブリシス・ダラス、CEO, サリー・ケネディ
9. コカ・コーラ・カンパニー、会長兼CEO, ムフタル・ケント
10. ユニリーバ、CEO, ポール・ポールマン

詳細は以下のURLを参照

<http://www.unwomen.org/en/news/stories/2014/6/private-sector-leadership-advisory-council-launched#sthash.BghPVa7X.dpuf>

(理事 本田敏江 訳)



応援メッセージ "あきらめないで!"

精神科医 香山リカ



国連ウィメン日本協会を心から応援します。

私は精神科医として診察室で長年、多くの困難に直面している方にお目にかかってきましたが、その中にはジェンダーの問題で苦しみ、心を病む女性が少なくありませんでした。恋人や夫からの暴力、職場での差別やセクハラ、誰もサポートしてくれない子育てや介護、“婚活”“妊活”などのプレッシャーなどなど、下は10代から上は80代に至るまで、一見、自由で平等な日本社会の片隅で不当な苦しみにあえぐ女性たちがなんと多いことか。

そして、さらに驚くべきことにそういった不平等を「仕方ない」と受け入れ、あきらめ

る女性たちも実に多いのです。「私は女に生まれてきちゃったのだから、彼氏に束縛されて自分のやりたい仕事につけないのはあたりまえなんだ」「子育ては母親だけの責任ですから、どんなにつらくても自分でがんばるしかないですよ」と語る女性たちを前に、私はいつも叫び出したい気持ちになります。「そんなことない！女性だから仕方ない、女性は黙って耐えるしかない、なんて誰が決めたの！」。

でも残念ながら、診察室では私はひとりの医師であり、とりあえずは目の前の人の症状を取り去るのが仕事です。彼女たちのジェンダー意識を変えたり、社会に働きかけたりすることはできません。

だから、どうしても国連ウィメン日本協会への期待が高まるのです。日本はいま、政権をあげて女性の社会進出、女性の登用を応援しよう、ということになっており、高い社会的地位につく女性もたしかに増えてはきました。でも、忘れないでほしいのです。まだまだ「女に生まれたのだから仕方ない」と理不尽な目にあいながら、そっとくちびるをかみしている女性たちが大勢いることを。国連ウィメン日本協会には、彼女たちに「あきらめないで！」と声をかけ、背中をやさしく押すパートナーにぜひなってほしい。そう思うのです。

TICAD5、フォローアップイベント「アフリカの輝く女性とともに成長を」

理事 田中由美子

国際協力機構（JICA）は、アフリカ7カ国から14人の女性起業家やその支援を担う政府関係者を招いて「アフリカ女性起業家支援セミナー」を、1月26日から2月6日に実施しました。7カ国は、エチオピア、ガーナ、タンザニア、ナイジェリア、マラウイ、南アフリカ、ルワンダです。参加者は、横浜市や相模原市、広島県などを訪問し、女性起業家を支援する行政サービスや女性起業家同士の相互サポートの事例を視察し、地域に根ざした女性起業家と意見交換を行いました。

このセミナーの一環として、2月3日には、JICAと横浜市の共催で、「アフリカの輝く女性とともに成長を」をテーマに、横浜シンポジウムで公開シンポジウムが開催されました。女性起業家や、アフリカに関心を持つ日本企業の関係者など約300人が参加しました。キャロライン・ケネディ駐日米国大使、岸信夫外務副大臣、田中明彦JICA理事長、林子横浜市長などが基調講演を行いました。

後半は、アフリカ、日本、米国の女性起業家により、「起業を通じた女性のエンパワーメン



ケネディ駐日米国大使
(写真提供：JICA)

ト」と題したパネルディスカッションがおこなわれました。エチオピアのテドウラさん(服飾企業)、タンザニアのオコエディオンさん(メディア企業)、南アフリカ共和国のカリさん(養鶏企業)、渡辺順子さん(ビタミンママ)、米

国で活躍するナイジェリア出身のオハジュルカさん(低コスト住宅)がパネリストを務めました。司会は田中由美子国連ウィメン日本協会理事(JICA国際協力専門員)が務めました。

パネルディスカッションでは、女性起業家としての活動や課題などについて意見が交わされました。問題として、家事育児との両立、ワークライフバランス、事業を運営・拡大するための資金へのアクセスの困難などが挙げられ、女性たちがジェンダーに基づく偏見や社会の仕組みと闘い続けていることがうかがわれました。パネリストたちは、

ビジネスで自分の生活、社会を変えていきましょう、自分たちの可能性を広げていきましょう、と呼びかけました。

「日アフリカ・ビジネスウーマン交流プログラム」としてJICAは、今後も毎年、アフリカの女性起業家や行政官を日本に招待し、アフリカと日本の女性起業家同士のネットワーク形成やビジネスの拡大を支援していく予定です。

(参考：http://www.jica.go.jp/topics/news/2013/20140212_01.html：JICAホームページ)



パネル討論(左から田中国連ウィメン日本協会理事、エチオピアのテドウラさん、タンザニアのオコエディオンさん)。
(写真提供：JICA)

第58回国連婦人の地位委員会(CSW)報告

CSWは昨年から、女性省大臣が本国で国際女性デーのイベントをしてから参加するため、国際女性デー後に開始されるようになり、今年は3月10日から2週間でした。会場は、リニューアルされた国連本部会議室。CSW開始前の3月7日、総会会議場で国際女性デーのイベントが行われ、ヒラリー・クリントンがメインスピーカー。彼女が「これまでは、国連がジェンダー平等の達成にイニシアティブをとり、ガイドしてくれたが、これからは女性自身が動かないといけない。」と発言。また、UN Womenの新事務局長(元南アフリカ共和国副大統領)は、「変化のための行動を起こそう」と呼びかけました。二人のメッセージは、日本の女性たちにも当てはまります。

今年の優先テーマは、「女性及び女兒に対するMDGs(ミレニアム開発目標)実施における課題及び成果」でした。2015年がMDGsの目標年であるため、ポストMDGsにジェンダーの視点を入れるためです。

合意結論の検討は、2月4日付でネットに

評議員 橋本ヒロ子(国連婦人の地位委員会日本代表)

出されたゼロドラフトに対して、各国が意見を出し、その後検討を進めて、最終日21日の翌日午前1時過ぎに合意し、合意結論の表現に添って修正したHIV及びAIDS決議を採択して2時に閉会しました。内容的には昨年の合意結論よりは北京行動綱領に近い内容になりました。北京+20やポストMDGsの議論が来年であるため、宗教的原理主義が広がっている状況としては、精一杯の成果だと言えます。

このような状況では、北京+20の2015年に世界会議を開催しても、北京行動綱領の内容を守るのに精一杯であり、ジェンダー研究などでは普通に言われているLGBT*など性的少数者の権利を入れるような前進は極めてむずかしい状況です。

これらの状況を改善するために、世界会議がなくても、国際的な情報交換と連帯がさらに必要な状況です。アジア太平洋地域では、11月14日に、NGOコンサルテーション、17-20日に政府間会合がバンコクで開催される予定です。*レズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダー

UN Women「北京+20」キャンペーン

女性をエンパワー、人間をエンパワー：絵に描いてみよう！

プムジレ・ムランボ - ヌクカ事務局長 (理事 本田敏江 抄訳)



北京+20
キャンペーンのロゴ

およそ20年前に世界は北京に結集して第4回世界女性会議に臨み、189の政府がジェンダー平等に至る地図を採択しました。北京宣言と行動綱領です。17,000以上の代表団と30,000以上の活動家が女性・女兒が人生のあらゆる局面において平等の権利、自由、機会を持てる世界を描き出しました。

この20年間で進歩は見られたものの男女平等を達成したと言える国はありません。今こそ世界はもう一度女性・女兒のために結集してこの旅を完結する時です。私たちのゴールは簡潔です。ジェンダー平等、女性のエンパワーメント、人権を実現する取り組みを新たに、アクションを強化し、そのための資源を増大させることです。

私たちはいまだに男女差別を日常的に目にしています。報酬の不平等、職場での機会不均等、公的及び民間部門での女性リーダーの少なさ、児童婚の悲劇、世界中で3人にひとりが暴力を経験しているという広がり{ヨーロッパの人口より多い}など。

しかし、北京会議以来、女性をエンパワーすることは人間をエンパワーすることであるという疑いのようなない証拠が次々出てきています。

ジェンダー平等が達成されている国は経済成長も高いのです。女性が経営陣に加わっている会社はより高い利益を株主に還元することができます。女性国会議員が多ければより広い問題について考え、健康・教育・反差別・子供支援に関する決議を採択できます。男女一緒に作り上げた平和合意はより長く続き、安定しています。

ある研究によれば、女性の教育を1年延ばすことで、子供の死亡率を9.5%減らすことができます。女性の農業従事者が資源・サービスに平等にアクセスできるようになると、生産量が増え、1億5千万人を飢餓から救うことができます。10年後には1億人の女性が世界経済にかかわることになります。彼女たちが平等な機会を持てるようになれば、

我々の将来の繁栄への流れを大きく変えることができます。

北京後20年たった今、私たちは北京+20キャンペーンを立ち上げ、ジェンダー平等のチャンピオンや成果を強調していきます。すべての国が20年間にわたる女性・女兒の状況を報告します。キャンペーンはリーダーや一般市民に同じように呼びかけ、北京綱領のビジョン実現に向けその取り組みを新たに促します。男性も男児もぜひ私たちと手を携えてほしいものです。

6月にはスウェーデンで多くの人が女性・女兒の人権保護のために集まることになっており、9月にはニューヨークで気候サミットが開かれ、女性国家元首や活動家が環境保護分野で女性が果たす役割を主張します。インドでは11月に男性・男児がジェンダー平等への支持を力強く訴えます。そして2015年3月8日の国際女性デーでは世界中がよりよい世界の実現に向けて声を上げます。

我々はともに男女平等を実現していかなくてはなりません。もう時間を無駄にできません。

女性をエンパワー、人間をエンパワー。絵に描いてみよう！

UN Women北京+20キャンペーン

以下のテーマに沿って、UN Womenは世界的なキャンペーンを展開しています。

・あなたにとっての北京アジェンダとは・成果を上げた女性たち・ジェンダー平等のチャンピオンたち・世界的有名人によるコラム・UNパートナー機関による北京行動綱領の12の重要問題領域

日本の取り組み

「北京+20」に向けて—第58回国連婦人の地位委員会(CSW)及び国際的な潮流—聞く会

日時：2014年4月17日(木) 14:00～16:00

会場：日本学術会議講堂

●基調講演：第58回CSW報告

合意結論報告、他

国連婦人の地位委員会日本代表 橋本ヒロ子、他

●パネルディスカッション「北京+20」に向けて：

コーディネーター

国連ウィメン日本協会理事長 有馬真喜子

パネリスト

国連婦人の地位委員会日本代表 橋本ヒロ子

国際婦人年連絡会常任委員 平松昌子

JAWW(日本女性監視機構)代表 田中正子

北京JAC(世界女性会議ロビーイングネットワーク)

共同代表 船橋邦子

日本女性差別撤廃条約NGOネットワーク(JNNC)

共同代表 永井よし子

新承認協定締結に向けて

理事 目黒依子

UN Women本部は昨年9月の「UN Women National Committees グローバル会合」(ローマ)での各国の意見を取り入れた修正案を10月に提案し、各国に共通の課題であった国内法が国連の方針に優先することを認めるなどの修正により、現段階では数か国が締結に近付いている様子です。

しかし、まだ多くのNCsが締結するまでに個別の課題を解決しなければならないようです。各国NCは基本的にボランティア・ベースの団体ですが、国により支部が複数あるもの・全くないもの、活動費に国からの支援を受けているもの・いないもの、NC本部が理事会や事務局をもつ組織体であるもの・そうでないもの、など様々な形態でユニフェム時代から寄付金を集める活動を続けてきた団体です。ユニフェムとは全く性格の異なる組織となったUN Womenとの承認協定の内容に戸惑いながら対応しているため、締結までに時間がかかっています。

国連ウィメン日本協会(JNC)は、UN Women本部とJNCが共有する目的に向けて協力しあうパートナーであることを前提とした承認協定(案)が、国際協定として不備のないことをJNCの法律顧問に確認する段階に至っています。

協力協定団体の活動

国連ウィメン日本協会 北九州

2014年2月24日、北九州市立男女共同参画センター・ムーブにおいて総会を開催しました。ユニフェム北九州として誕生し、その後名称の変更を経て、このたびの総会で、名称を「国連ウィメン日本協会北九州」と決めました。また今年、7月に設立20周年を迎えることから、記念事業の開催や記念誌の発行を行うことも決まりました。

議事の終了後には、三隅佳子会長による講演「国連におけるジェンダーの推進～ユニフェムからUN Women(国連女性機関)へ～」を行うとともに、国連ウィメン日本協会からいただいたDVD「世界の女性とUN Women」の上映を行い、会員の皆さんに、これまで以上のUN Womenについてのご理解とご協力をお願いしました。

この1年が、忙しいながらも、充実した1年になることを願った一日となりました。

事務局長 河野賢司

東京UN Women 国内委員会 グローバルミーティングの開催

毎年、国内委員会の代表が集まって世界的なミーティングが開催されます。今年は日本開催が決まり、準備に奔走中です。

日程：2014年10月27日～28日

会場：国際文化会館(東京・六本木)

参加予定国内委員会：オーストラリア、オーストリア、カナダ、フィンランド、ドイツ、アイスランド、イタリア、シンガポール、ノルウェー、イギリス、アメリカ、日本

日本政府の2013年度UN Women 拠出金は大幅に増加

2013年9月26日、第68回国連総会において、安倍首相が一般討論演説の中で、女性の活躍を一層推進するウィメンミクスという日本政府の主張を述べ、UN Womenの活動を尊重し、関係国連機関との連携を図っていくと表明しました。その結果、日本政府のUN Women 拠出金は、大幅に増額されました。通常の予算から、UN Women コアファンドへの7,763万9000円(94万6809ドル)が決まっていますが、さらに補正予算からUN Womenへ、3億6,897万3000円(449万9665ドル)、ジェンダー平等基金へ8,241万円(100万5000ドル)が拠出されました。



国連ウィメン日本協会 大阪

2月22日(土)、クレオ大阪中央にて、国連ウィメン日本協会大阪の総会を開催しました。2013年度の事業および会計報告および2014年度事業計画および予算が承認され、その後、日本協会が字幕制作をおこなったDVD「手を携えて～女性・平和・安全保障」を上映し、紛争時の性的暴力へ

の不処罰を根絶し、平和構築プロセスへの女性の参加を保障するための活動について学びました。

今年度、国連ウィメン日本協会大阪は10周年を迎えます。多くの方々と10周年を祝い、国連ウィメンの活動をより多くの方に知っていただくために、6月28日(土)15時よりクレオ大阪中央(大阪市天王寺区上汐5)にて、チャリティイベント「バイマーヤンジン トーク&コンサート〜異文化を超えて、チベットと大阪をつなぐ大地の歌」を開催します(参加費1,000円、定員100人)。バイマーさんはチベット出身の音楽家で、1994年来日後、全国でコンサートや講演を行う傍ら、チベットの子どもたちの教育支援や東日本大震災の被災地支援を行うなど社会活動にも精力的に取り組んでおられます。このイベントでは、バイマーさんのすばらしい歌声とチベットの歌を楽しみながら、ご自身の体験にもとづいたお話をうかがい、私たちの暮らしを振り返る機会にしたいと考えています。ぜひ、ご来場ください。

理事 山本愛



国連ウィメン日本協会 堺

2014年2月、国連ウィメン日本協会の正会員である「堺市女性団体協議会」が65周年の記念式典を開催。65年の歴史の中で国内外の関係機関とのつながりによってUN Women活動を推進してきました。また、3月8日国際女性デーには、堺市主催のイベントにおいて、「災害時におけるジェンダー平等と女性のエンパワメント」をテーマに大阪府立大学山地久美子教授による講演会が行われ、同時にUN Women活動の紹介と啓発のパネル展示が開催されました。私たち「堺」は協賛事業として、堺市内で活動する「女性オーナー企業」の活動を支援し、企業の取り組みを紹介すると共に商品販売を促進し、売り上げの一部をUN Womenに寄付していただきました。当日は、終日約800名の人で賑わいました。

事務局



国連ウィメン日本協会 多摩

今年前半は大雪の中の総会以外、定期役員会だけで終わってしまっています。事務所のある昭島市の依頼により、スポーツチャレンジデーに協力参加。毎回の役員会で話し合われていることは、8月のモンゴルスタディーのこと。9月12月のチャリティコンサートのことです。今まで30人前後の小規模のコンサートしか経験のない私たちにとって50人の9月と250人の12月のコンサート、今から内容、チケット販売への不安等毎回議論の連続です。しかし、この活動を理解し、快くチャリティに協力して下さる方々が増えてきて、少しずつ国連ウィメンのことが理解されてきつつあると手ごたえを感じています。

手工芸品の仕入れ先であるモンゴルキルトの10周年記念に参加するため、モンゴルに7名で行く予定です。モンゴルのシングルマザーや貧しい女性たちへ、技術を教え、製品の販売に協力してきましたが、今では国が離婚でシングルマザーになった人達へ、技術習得のために助成金を出してくれるようになりました。今年が多摩にとっても、一つの節目になりそうです。

会長 小川裕未

国連ウィメン日本協会 よこはま

2月16日、協力協定団体としても新名称になって初の総会が開催されました。会長は4年間務めた西村会長から世代交代で樽谷新会長へとバトンタッチ、新体制の理事会が動き出しました。また二つの地域のお祭りに参加出店しました。

3月9日は恒例となった「国際女性デー2014〜つながる輪ひろがる和〜」をアートフォーラムあざみ野で開催、テーマは「飢餓から未来を救え! アジア農村女性のチャレンジ」です。マニラから駆けつけてくださったアジア開発銀行シニア農業資源マネジメントスペシャリストの、片上美知子氏の講演は目からウロコでした。世界の飢餓人口10億人の3分の2がアジア・太平洋地域の人々で、南アジアでは子どもの40%が深刻な栄養失調に陥っていて、次世代育成に大きなダメージとなっているなど。貧困家庭の少女の健康を守り、また農村女性が伝統工芸品の販売で自立していくことで未来の食卓が支えられるそうです。

地元グループのさわやかなコーラスで幕を開け、講演後は協力団体の手作り品に加えて被災地支援品も販売、和やかな交流の場となりました。

5月にはニューズレター10号発行、フォーラム1Fのウィメンショップにはカンボジアの竹細工、マレーシアの夏向きの品が並び、全員で交代して販売に当たっています。

広報部会長 衛藤栄津子



国連ウィメン日本協会 東京

今年度は任期満了になった役員7名が交代になったのが活動がスタート。新任が多い3か月の活動も無事に経過しています。

新緑の5月25日、上智大学構内で開催される恒例の『オールソフィアンの集い』バザーへの参加も6回目を数え、晴天に恵まれたこの日、会場には老若男女が立ち寄ってくださり、新デザインのインドグッズやカンボジアの手編みの竹籠、フィリピンの幼児用ラーニングバックなどに興味を寄せてくれ、売り上げに協力いただきました。スタッフ一同もまたUN Womenの意義や活動の説明をしながら、抛出金づくりに精を出しました。

上半期は、6月下旬に連続講座第2回『音楽とジェンダーを学ぶ』（講師：国立音楽大学名誉教授 小林緑氏）を津田塾大学同窓会会議室で、7月4日には横浜みなとみらい小ホールでの『金井 信 ピアノコンサート』を予定しています。金井氏は、新感覚の楽しいステージを企画するいま人気の演奏家と聞いています。お二人とも講演会や演奏会を通して、UN Women活動の認知度を上げるために少しでも協力できるならと、快諾されたことに心から感謝しています。この機会に、より多くの方々に足を運んでいただけるよう願いながら、役員は奔走しています。

副会長 鈴木賀子



国連ウィメン日本協会 さくら

3月8日は国際女性デーです。当日は全国各地で会員が会合を開きました。今から110年前、1904年3月8日に米国のニューヨークにて女性参政権のために立ち上がった、勇気ある女性達のデモ行進をきっかけとした女性デー。今日までの歴史を皆で学び、各々の考えを発表する機会としました。また、日本の女性参政権がスタートした記念すべき1946年4月10日、初めて投票権を得た当時の女性達の状況、その時の思いをまとめた「1946.4.10」の本を題材として、日本の女性の参政権について考える啓発活動を行いました。

また、3月に福島県相馬市の仮設住宅の女性達と大槻会長が国際女性デーについて、ともに学び語りありました。ゼロから出発した被災地では、女性の視点を活かし、元気印の皆さんが復興に大きな役割を果たしてきたとの発言に勇気を頂きました。女性の活躍が再生の大きな力となり、逆境に負けない実績の体験が次々と語られました。「女性が輝く社会の主体者はわたし」の意気込みに満ちた楽しい国際女性デーとなりました。

この度、原点(1992年)に立ち返って全国的に募金活動を展開することにしました。自分達の手作りでユニフェムの募金箱を元にリニューアル。エコで地球にも優しい募金箱を手に入れた活動を広げていきます。

広報部



国連ウィメン日本協会2013年度抛出金支援プロジェクト

2013年度抛出金は365万2980円(35,141.26ドル)となりました。ご協力いただいたすべての方々にあつく御礼申し上げます。2014年4月8日に、UN Women本部に送金しました。

支援するプロジェクトは

①カンボジア竹細工プロジェクト:

103万9500円(10,000ドル)

「竹製品の品質の向上と流通の改善を通じて女性の経済的エンパワーメントを高める」

2012年から継続して支援しているプロジェクトによって、カンボジア農村女性の自立が進められています。



カラフルなカンボジアの竹細工

②ベトナムエイズ関連プロジェクト:

103万9500円(10,000ドル)

「HIV感染女性の能力構築：『自分の権利を知って請求しよう』」

ベトナムでは、女性のエイズ感染が広がり深刻な社会問題になっています。背景には女性が「ノー」といえない環境があり、その壁を打ち破るために、UN WomenとUNAIDSが共同でプロジェクトを展開します。

③暴力撤廃信託基金:

157万8934円(15,141.26ドル)

世界の女性の3人にひとり、ジェンダーにねざした暴力の被害者と言われています。国連ウィメン日本協会は、昨年に引き続き、世界各地で、暴力根絶のために活動する基金を支援します。

事務局からの報告

■内閣府PKO派遣前研修

内閣府国際平和協力本部より、帯広自衛隊で実施された南スーダンへのPKO派遣前研修において、昨年、当会が日本語字幕を制作したDVD「手をたずさえて:女性・平和・安全保障」を用いてジェンダー研修を実施して欲しいとの依頼を受け、2014年2月4日(火)に、理事の三輪敦子が、「現地の活動におけるジェンダーの視点の重要性」とのタイトルで講義をおこないました。DVDのメッセージが実際の活動に活かされる貴重な機会を得ることができました。

■UN Women プムジレ・ムランボ - ヌカカ事務局長の来日

外務省の招きにより、2014年3月25～28日滞在。安倍首相表敬をはじめ、経済団体連合会、国連ウィメン「開発と女性」議員連盟 勉強会、記者クラブでの記者会見等、幅広い関係者と意見交換し、女性のエンパワーメントの重要性を、日本の政財界へ強くアピールしました。国連ウィメン日本協会は、議員連盟の勉強会のあと、急遽、懇談の機会を得て、有志が参加して意見交換をしました。また、石原宏高外務大臣政務官主催のレセプションに参加しました。

■外務省総合外交政策局女性参画推進室の設置

2014年4月22日付けで、外務省は総合外交政策局人権人道課の下に、新しく女性参画推進室を設置しました。女性関連施策を取りまとめる新しい部署で、国連婦人の地位委員会、UN Women、女子差別撤廃条約などに関する施策に加え、行動計画策定などの業務も担当し、女性の参画推進に関する企画・立案、女性の参画促進に関する外交政策に関する事務の総括を行います。

■国連ウィメン日本協会2013年度決算報告 (2013年1月1日～12月31日)単位:円

一般会計

■収入の部		■支出の部	
会費収入	2,760,000	拠出金	3,652,934
事業収入	0	事業費	3,489,235
寄付金収入	5,608,570	管理費	1,379,427
その他資金繰入	1,000,000		
受取助成金	300,000		
雑収入	773		
当期収入合計	9,669,343	合計	8,521,596
その他資金			
■収入の部		■支出の部	
利息	1,078	一般会計に繰出	1,000,000
当期収支差額	148,825		
前期繰越収支差額	10,570,728		
次期繰越収支差額	10,719,533		

■国連ウィメン日本協会新役員氏名(2014～2015)

理事長	有馬真喜子		
副理事長	岩田喜美枝	三隅佳子	渡邊暁子
理事	阿部幸子	大槻明子	大町むら子
	渋谷典子	清水あつ子	鷲見八重子
	高橋克子	田中由美子	本田敏江
	三輪敦子	目黒依子	吉川真由美
監事	遠藤みち	酒井興子	
アドバイザー	岩城淳子	矢島千里	宮坂洋子

■寄付者一覧(前回掲載以降2014.6.10現在)

日本GE株式会社 国連ウィメン日本協会北九州 国連ウィメン日本協会東京 国連ウィメン日本協会大阪 国連ウィメン日本協会さくら 国連ウィメン日本協会よこはま 宮下保子 横井千香子 国連ウィメン日本協会佐賀 国連ウィメン日本協会堺 池田路子 清水厚考 高野久子 十文字学園生活協同組合 全国友の会 彩歩の会 中央労働金庫営業統括部(貯めCiao!事務局) 国際ソロプチミスト京都 上田恵美 三浦まり 岡島敦子 黒河内久美 宮澤知子 国際ソロプチミストアメリカ日本西リジョン

■正会員団体17団体(2014.6.10現在)

〈団体〉(財)アジア女性交流・研究フォーラム NPO法人一冊の会 (一財)大阪市男女共同参画のまち創生協会 群馬婦友会 国際婦人年連絡会 堺市女性団体協議会 全国友の会 ソシエテ彩 国連ウィメン日本協会堺 国連ウィメン日本協会さくら 国連ウィメン日本協会多摩 国連ウィメン日本協会東京 国連ウィメン日本協会よこはま (公財)横浜市男女共同参画推進協会
〈企業〉イオン1%クラブ (株)高島屋 日本たばこ産業(株)

■正会員個人39名(前回掲載以降2014.6.10現在)

渋谷典子 本田敏江

■賛助団体14団体(2014.6.10現在)

〈団体〉(公財)京都市男女共同参画推進協会 久留米市男女平等推進センター (一社)国際女性教育振興会茨城県支部 越谷ミズの会 (公財)せんだい男女共同参画財団 (一社)大学女性協会 にいがた女性会議 日本生活協同組合連合会 浜松市男女共同参画推進協会 国際ゾンタ26地区 (公財)佐賀県女性と生涯学習財団
〈企業〉(株)グッドバンカー (株)電通 (株)リコー

■賛助個人134名(前回掲載以降2014.6.10現在)

山本蒔子 前田 薫 奥江ふみ子 金丸千寿子 木下朝美 釘本君子 徳久榮子 中島登美子 松永良恵 岩城淳子 伊藤千鶴子

<認定> NPO 法人国連ウィメン日本協会

旧称: UN Women 日本国内委員会

事務局

〒244-0816 横浜市戸塚区上倉田町435-1

男女共同参画センター横浜内(フォーラム)

・TEL. FAX. 045-869-6787

・Email unwomennihon@adagio.ocn.ne.jp

・ホームページ <http://www.unwomen-nc.jp>

●交通のご案内 JR・横浜市営地下鉄「戸塚駅」下車、徒歩7分

